

講習の名称：アジアのなかの日本—近現代史から考える

担当講師：今井 なるみ（教育学部准教授）

講習開講日：平成 28 年 12 月 26 日（月）

時間数：6 時間

主な受講対象者：社会科を担当する小・中・高教諭、その他受講したい人はどなたでも。
このようなご時世だからこそ、中国の社会の特徴や日中関係史、さらには日本とアジアのつながりについて、少し冷静に考えてみたいなど思っている人はとくに歓迎いたします。

キーワード：日中関係、近代、

講習の概要：私の専門は中国の近現代史なのですが、今回の講習では中学校までに学習する日本史的内容を、中国史を含めたアジアのなかでとらえ直すことを目的とします。具体的には、「ペリー来航」・「日清・日露戦争」・「不平等条約」・「第一次世界大戦」・「女性の社会進出」・「米騒動」・「国家総動員法」あたりから時間数を勘案して選びたいと考えています。が、これを書いている段階ではまだ 1 年近く先のことなので、日中関係の動向によっては時事的な問題とも関連づけやすいテーマに一部変更する可能性もあります。

講習の展開：

第 1 時限 「不平等条約」について

第 2 時限 第一次世界大戦

第 3 時限 米騒動とアジア

第 4 時限 国家総動員法 総力戦下の社会

受講に当たっての要件（講習内容のレベル）：

とくにありません。レベルは他と比較したことがないので不明です。義務教育段階の社会科の知識があればいいように、また、義務教育課程の社会科の内容に引きつけて話ができるよう、私も準備いたします。その他細かいことは、二度目の免許更新講習なのですが、実は私もよくわかっておりません。

授業の形式：雑談・対話を交えながらの講義形式。寒い時期なのに面倒なイベントですが、まあ、せっかくなので楽しくやりましょう！

履修認定試験：平常点、簡単なテスト

テキスト・参考文献：

テキスト 使用しません プリントでやります。

参考文献は、全般的なものはありませんが手に入りやすいものとして以下のものを挙げておきます

岡本隆司『近代中国史』ちくま新書、2013 年

奥村哲・笹川裕史『銃後の中国社会—日中戦争下の総動員と農村』岩波書店、2007 年

大豆生田稔『お米と食の近代史』吉川弘文館、2007 年